

令和5年11月11日11時、トリプル・イレブンの土曜日、総会としては5年振りの桂雪会東京・関東支部総会を、若者で賑わう原宿駅前「南国酒家」で開催した。コロナ禍を経て参加人数が予測できない状況であったが50余名の集いとなり、今回初めて南高、照丘高出身者の参加もあった。会場には長坂邦彦氏(高6)提供の故郷飯山の四季の写真も掲示された。

副支部長の阿部靖典氏(高31)の進行のもと、青井富雄(旧姓岡村)支部長(高19)の開会挨拶で始まり、飯山高校の湯本武利校長先生(高55)からは「各学年とも5クラスで学業、クラブ活動、さらにSSHや地域活動などに奮闘し成果をあげている。スキー部は男子優勝、女子準優勝の成績を上げた。今年は前身から数えて飯山高校120周年であり、10月14日に記念式典・講演会・祝賀会を行った。」と現状報告して頂いた。

続いて総会議題に入り、副支部長の高橋(高24)から、本部・支部の活動を報告し、さらに今年から桂雪会本部からの経費的支援を受けられるようになったことを報告した。阿部副支部長から会計報告、中島謙次氏(高41)から会計監査報告がなされ、活動報告、会計報告ともに拍手で承認された。さらに、青井支部長が支部役員体制の変更を報告して承認され、阿部新支部長が新体制を発表した。

講演は、飯山市長の江澤岸生氏(高24)から「高野辰之作詞の唱歌には冬の歌はないが、童話「かさじぞう」の挿絵は飯山の冬に魅せられて描かれている。飯山の四季の自然と環境をさらに見つめ直し行政に活かしていきたい」との話があり、児童文学家の上野明雄氏(高14)の紹介もあった。

懇親会は、副支部長になった山城弘枝氏(高34)と藤好しのぶ氏(高44)の澁漵とした司会で進められ、最年長の高木良造氏(高3)の乾杯で和やかな懇親の集いが始まった。小規模の会場ではあったが、各テーブルでは本格的中華料理に舌鼓を打ちつつ、互いの近況や思い出話で大いに盛り上がった。さらに、指名された諸先輩が次々に登壇して懐かしい話を披露し、互いにうなずき合う姿も見られた。

校歌斉唱では、前回練習した飯山高校校歌に新たに南高校歌と照丘高校歌が加わり、最後はお待ちかねの飯山北高校歌「甲斐の高峰に～」が高らかに胸いっぱい思いで歌い上げられた。終わりは本部副会長でもある高橋の万歳三唱で閉会し、互いに惜しみながら再会を誓って散会した。

今回初めて南高、照丘高出身の参加者が加わり、さらに若手も増えて東京・関東支部の新たな姿がみえてきた。今後とも、本部とも連携しながら同窓生のさらなる参加拡大を目指していきたい。

#### 令和5年度 支部・新役員体制

顧問	岡田庸人氏(高8)	青井富雄(高19)
支部長・本部代議員	阿部靖典(高31)	
副支部長・本部副会長	高橋 彰(高24)	
副支部長	山城弘枝(高34)	
会計	藤好しのぶ(高44)	
事務局	六川裕幸(高34)	
会計監査	中島謙次(高18)	

